



スコップを片手に一生懸命タケノコを掘る園児

おいしいタケノコ食べたいな

■タケノコ掘り／菅山保育園

菅山保育園の4・5歳児約70人は4月19日、同園裏山でタケノコ掘りを行いました。

これは21日に同園で開催されるタケノコ祭りを前に、園児らが自分の手で使用するタケノコを採ったものです。

園児らはスコップを片手に泥んこになりながら、力いっぱいタケノコを掘りました。

21日の祭りでは保護者役員らによるタケノコ解体ショーの後、タケノコ料理などが振る舞われ、園児たちは春の味覚に舌鼓を打っていました。

この海を次の世代に残すために

■静波海岸周辺環境美化推進活動

静波海岸ボランティアの会（加藤初次会長）主催の静波海岸周辺環境美化推進活動は4月16日、静波海岸や付近の保安林で実施され、地域住民や関係団体など約100人が参加しました。

これは、清掃活動を通して、地域住民にあらためて海の美しさや保安林の重要性について、理解を深めてもらおうと毎年実施されているもので、参加者はごみ拾いや樹木の剪定などを行いました。

17日も、市観光協会主催の海岸清掃活動が実施され、多くの市民が参加しました。



海岸の樹木を剪定する参加者。皆できれいにしていこう

迫力ある飛行機を目の前に

■富士山静岡空港東側展望広場開園式

富士山静岡空港東側展望広場の開園式は4月28日、坂部保育園の園児26人が参加して、執り行なわれました。

関係者や園児らはテープカットの後、芝桜110本を記念植樹しました。

広場の面積は約5000平方メートル。空港東側滑走路から約400メートルに位置し、伝説上の「だいだらぼっち」の足跡をイメージして建設。中央に開けられた穴から飛行機を眺めることができる「空見石」や芝生広場などが整備されています。



大きな機体を見せ、園児らの真上を通過する飛行機



自分たちの手で楽しそうにお茶を摘む児童ら

お茶を身近なものを感じる

■萩間小学校お茶摘み体験

萩間小学校3年生の児童26人は4月27日、野ヶ本和義さん（女神）の茶畑で、新茶のお茶摘み体験を行いました。

これは、お茶の産地として、児童にお茶について学んでもらうために企画されたもの。

児童は、摘んだお茶の葉を生で食べ、「普段飲んでいるお茶と比べて、生の葉っぱはとても苦い」と驚いていました。

その日の給食で、児童らは摘んだお茶の葉を天ぷらにして食べました。

看護への道を決意して

■静岡県中部看護専門学校入学式

県中部看護専門学校入学式は4月8日、同校講堂で執り行われ、本市から、井上歩美さん（静波）と杉山若葉さん（坂部）が入学しました。

二人とも「卒業後は榛原総合病院で働き、地域のために頑張っていきたい。3年間一生懸命勉強したい」と強く抱負を語ってくれました。

榛原総合病院の茂庭将彦院長は、「病院での講義や実習のときには、生徒の皆さんの成長した姿を見ることができ、大きな喜びです。これから頑張ってください」と祝辞を述べました。



笑顔の杉山さん（左）と井上さん（右）。活躍が楽しみ

広報担当がどこにも取材に行きます。あなたの身近なホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報課 ☎230052 ✉ seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp



飛行機を眺めながら歩く

■富士山静岡空港ウォーク2011



晴天に恵まれ、家族連れやウォーキング愛好者など幅広い年齢層が参加

牧之原市、島田市、吉田町のウォーキング団体が組織する実行委員会（谷澤喜保子実行委員長）主催の第1回空港ウォークは4月17日、県内外から約800人が参加し、開催されました。

5km、10km、15kmのコースが用意され、参加者は空港周辺の新緑美しい茶畑と時折飛び立つ飛行機を見ながら、思い思いのペースでウォーキングを楽しんでいました。

谷澤実行委員長は、「ウォーキングを通して、空港の利活用につなげたい。これからも継続して実施し、運動の観点だけでなく、人との交流や地域とのふれあいを行っていききたい」と将来を見据え、力強く話していました。



新入団員を代表して辞令を受ける第五分団の西下卓美団員

地域の安全は私たちが守る

■平成23年度牧之原市消防団辞令交付式

市消防団辞令交付式は4月2日、静波体育館で執り行われ、新たに80人が消防団に入団しました。

東日本大震災の犠牲者への黙とうの後、大石公洋団長は団員らに対し「自覚と責任、誇りを持って職務にあたってほしい」と訓示。新入団員らは少し緊張した表情で聞いていましたが、その目からは地域の安心、安全は自分たちが守るといった責任感が感じられました。

式後、彼らは幹部団員から団員としての心構えを受け、規律の訓練を行いました。